

「建国記念の日」不承認
大阪府民のつどい
2018年2月11日(日)13:30～
たかつガーデン 8F
講演：原田敬一さん（歴史学者）

泉北教育

NO.2099 2018.1.15.
発行 泉北教職員組合
〒594-0071 和泉市府中町6-12-2
0725-41-1953 Fax0725-44-6570
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp

チャレンジテストで評価が 「修正」された生徒数 ↑が上方修正された生徒 ↓が下方修正された生徒

年度			2015年度			2016年度		
修正			↑	↓	受験者数	↑	↓	受験者数
1年生	国語	人	1,211	1,554	68,685	492	1,888	65,940
		%	1.76%	2.26%		0.75%	2.86%	
	数学	人	1,271	963	68,725	1,015	855	66,005
		%	1.85%	1.40%		1.54%	1.30%	
2年生	英語	人	884	1,400	68,807	828	1,123	66,146
		%	1.28%	2.03%		1.25%	1.70%	
	理科	人	1,814	984	70,222	895	1,201	67,132
		%	2.58%	1.40%		1.33%	1.79%	
2年生	社会	人	1,193	1,480	70,173	1,108	863	67,096
		%	1.70%	2.11%		1.65%	1.29%	
	計(延べ)	人	7,281	6,665		5,095	5,646	
		%						

多数の教職員の反対の声を無視して、今年度も府教委は中学校1・2年生のチャレンジテストを1月11日に強行しました。年度末には

左の表は、毎日新聞1月

10日付夕刊を引用したものです。教職員が一年間かけて評価したものが、たった1回のテストで変更された実態が報道されています。

学校教育ゆがめるチャレンジテスト 成績「修正」は年延べ2万人

以下はその内容を同じ新聞記事より引用します。

大阪府教委が2015年度に公立中学校などで導入した独自の統一学力テスト「チャレンジテスト」に基づき、各教科の5段階評価が修正された生徒は年間延べ約2万人に上ったことが府教委への取材で分かった。

テスト結果を受け、5段階評価の「1」が「5」に繰り上がったたり、3段階下がったりした生徒もいた。（中略）

府教委によると、15年度は1年生約6万9000人、2年生約7万人が受験し、両学年で延べ2万1229人（1年生7283人、2年生1万3946人）の評価が修正された。16年度は1年生約6万6000人、2年生約6万7000人が受験。修正されたのは両学年で延べ1万6942人（1年生6201人、2年生1万741人）だった。15年度に評価が1段階上

下した生徒は延べ2万430人。2段階は延べ765人、3段階は延べ32人で、評価が「1」から「5」に4段階上がった生徒も1年生の英語と2年生の数学で各1人いた。16年度は1段階が延べ1万6526人、2段階が延べ402人、3段階は延べ14人。

教科別にみると、修正割合は3・4%。評価が1教科でも修正された生徒は相対的に上るとみられるが、府教委は実数を算出していない。（後略）

大阪の教育行政に詳しい大阪大学大学院の小野田正利教授（教育制度学）の話

多くの生徒の評価が修正されており、テストのあり方に疑問を感じる。年1回のテストで評価が変更されるなら、学校で育まれる集団性や学習への姿勢などは反映されず入試と同じ基準になるのでは、内申点は必要ない。学校現場がテストの点数のみを追い求めるようになる懸念もある。このテストが大阪の教育制度をゆがめていないか、改めて考える必要がある。

子どもと学校を追い詰める「新学習指導要領」は撤回。「チャレンジテスト」は廃止。